

我が運命こそ

(大正三年寮歌)

樋口桜五君 作歌
赤木顕次君 作曲

一

我が運命こそ青濁わける
千ひろの海の真珠取り
美想にあこがるる身は
驕楽の春に酔ひしれて
戯る人を夢とはみつ
逆まく波を聞きゆく

二

永遠に華さく水底ふかく
神秘の巖に嫦娥の
露のしづくの真珠またま
掌に獲し光栄と喜悦と
七重の潮の妙音にひびく
美珠こそわれの生命なれ

三

薫る樹陰に花仄みえて
朧おぼろの春の宵
一壺の酒の汲む夢淡く
心の酔に舞歌を
社会高くしらべ祝はむ
君瑞祥の歳なれや

四

彩雲低く恵の家に
幸漂蕩ひてゆく水や
姿うつるほす柳の萌黄
契りゆかしき春鳥の
団欒の音をばうつし伝へむ
遠くはるけき師の君に